

平成21年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	高等専修学校生の雇用ミスマッチ解消教育プログラムの研究・開発		
法人名	学校法人細谷学園		
学校名	細谷高等専修学校		
代表者	理事長 細谷 貢	担当者 連絡先	細谷 祥之 TEL 0296-22-2733
1. 事業の概要			
<p>一昨年からの経済不況を背景に、高等専修学校生の就職状況については大変厳しい状況にあるが、高等専修学校生においては、そのような社会情勢について関心の低い生徒も多く、卒業後の進路について深く考えずに成り行きで就職を決定している者も多い。現状では、仕事・社会情勢に係わる認識の低さや自分の体力不足から仕事に対して必要以上の不満を感じてしまい、早期離職、フリーター、ニートとなってしまう生徒も少なくない。以前広く地元中小企業に行なったアンケート調査結果では、ほとんどの地元中小企業が若年新入社員に求めている資質として、「やる気、真面目、挨拶・返事、素直、忍耐力」が、ベスト5であったが、これについても、就職する側（高等専修学校生）の現状・認識と様々なずれがある。</p> <p>また、高等専修学校生に限らず仕事を長時間・長期間継続して行っていくためには、職種に係わらずほとんどの場合一定レベルの体力が必須であるが、体を動かすこと自体が好きではなく、その結果として何もしない（ニート）という状態になってしまう生徒もいる。</p> <p>そのような中で、就職の際に求められる適切な教育プログラムを早い段階で高等専修学校生に行う事が必要と思われる、高等専修学校生の進路決定・就職・雇用に関するミスマッチの解消・早期離職の防止などを目的とした短期教育プログラムについて、研究・開発を行った。</p> <p>具体的には、市の教育委員会、社会福祉協議会、公共職業安定所、高等専門学校、協力校、企業の代表者、その他様々な分野の方々による実施委員会、人間教育及びビジネス教育分科会、体力向上分科会、職場実習分科会を設置し、それぞれの分野の教育プログラムを本校生（高等専修学校生）に適した内容となるよう留意しながら研究・開発を行った。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①開発したプログラム・教材・教育手法等の概要			
<p>対象：学校法人細谷学園 細谷高等専修学校生徒 （高等専修学校生 15歳～18歳、女子）</p> <p>①人間教育及びビジネス教育プログラム 社会経験のない高等専修学校生が就職する際に必要と思われるビジネス教育に加えて、企業が若年新入社員に求める基本的資質（やる気、真面目、挨拶・返事、素直、忍耐力）に関して効果的に育成し、ほとんどの地元中小企業が若年新入社員に求める基本的資質・</p>			

知識・スキルを兼ね備えたバランスの良い人材を育成するための短期教育プログラムについて研究・開発を行った。

- a. 企業が求める基本的資質育成プログラム
  - ・ 自分開発
  - ・ コミュニケーション検定に係る学習
- b. 講話プログラム
  - ・ 基本的資質に係る講話（3回）
- c. 指導の為の職員研修プログラム
  - ・ 生徒の基本的資質（特にやる気）を育成するための職員研修
- d. ビジネス教育プログラム
  - ・ ビジネスマナー
  - ・ パソコンスキル

## ②体力向上プログラム

生徒の体力不足による早期離職を防ぐ目的で、就職後に毎日のハードな仕事を少しでも楽にこなしていくのに必要なだけの体力を、以下のような有酸素運動・無酸素運動を取り交えてサーキットトレーニングに近い形式で楽しみながら筋力、柔軟性、持久力を向上していく為の教育プログラムについて研究・開発を行った。

- a. 楽しみながら継続できる有酸素運動・無酸素運動プログラム
  - ・ アップライトバイク
  - ・ リカンベントバイク
  - ・ バランスボール
  - ・ エクササイズチューブ
  - ・ ストレッチマットを使用した運動
  - ・ エアロビクス
  - ・ 縄跳び
  - ・ ジョギング
  - ・ 油圧式マシン（スクワット）
  - ・ 油圧式マシン（チェストプレス）

## ③職場実習プログラム

社会経験が少なくアルバイトもあまりしたことのない高等専修学校生が、2日間～4日間の職場体験実習を行い、働くことに関して考え、イメージし、上述プログラム内容の企業が求める基本的資質（やる気、真面目、挨拶・返事、素直、忍耐力、体力）の大切さと自分の現状について認識するとともに今後の課題をみつけ短期間でレベルアップを図る為の就業体験プログラムについて研究・開発を行った。

- a. 職場実習事前指導プログラム
  - ・ 職場実習に係るビジネスマナー
  - ・ 適職診断
  - ・ 工場見学
- b. 企業が求める基本的資質を意識した職場実習プログラム

## ②ニーズ調査等（手法・期間・効果）

今年度は調査を行っていないが、高等専修学校生に求められる基本的資質について、平成17年度専修学校教育重点支援プランで本校が行ったアンケート調査結果を参考にした。

アンケート発送企業数・・・764社

アンケート回答企業数・・・213社

後援・・・下館商工会議所、結城商工会議所

アンケート調査では、入社1年未満の新入社員について、どのようなことが大切だと思うか、以下の24項目について4段階（必要・どちらかといえば必要・あまりみつようではない・現状では必要ない）で評価していただいた。

1. 素直 2. 明るい 3. やる気 4. 真面目 5. 忍耐力・持続力・精神的強さ 6. 実効力 7. 体力 8. 自主性 9. 積極性 10. 声がハッキリしている 11. あいさつ・返事がきちんとできる 12. 上司に対する礼儀・言葉遣い 13. 相手の目を見て話す 14. 手早さ 15. 正確さ 16. パソコンの基礎知識 17. スペシャリティ（専門性） 18. 各種検定試験等の資格 19. 基礎学力 20. 情報収集力 21. 情報分析力 22. 問題発見力 23. 問題解決力 24. アイデア・発想力

この中で、「必要」、「どちらかといえば必要」と回答した企業が多かった上位5項目（やる気、真面目、挨拶・返事、素直、忍耐力）を今事業の教育プログラムにおける企業が求める基本的資質として研究・開発に取り組んだ。

また、体力についても90.9%の企業が「必要」、「どちらかといえば必要」と回答しており、今回の育成目標のひとつとした。

### ③実証講座の状況

受講者の属性：学校法人細谷学園 細谷高等専修学校生徒  
（高等専修学校生 15歳～18歳、女子）

#### 検証内容

研究・開発した各教育プログラムについて、本校生徒に対し実証講座で実践し、高等専修学校生に対する教育プログラムの効果についての検証を行った。

実証講座は平成21年7月～平成22年2月までの期間にそれぞれの教育プログラムを行い、実施委員会、各分科会の視察などを通して、より効果の高い教育プログラムとなるよう改善していった。

#### ①人間教育及びビジネス教育プログラム

研究開発した教育プログラムを平成21年7月から平成22年2月まで実施し、企業が求める基本的資質（やる気、真面目、挨拶・返事、素直、忍耐力）をはじめとする育成目標の教育効果について検証した。

#### ②体力向上プログラム

開発した教育プログラムを平成21年9月から平成22年2月まで実施し、体力の向上（特に持久力の向上）についての教育効果を検証した。

#### ③職場実習プログラム

教育プログラムを平成21年10月から平成21年12月まで実施し、企業が求める基本的資質の理解について効果を検証した。

#### ④その他

### 3. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

今回研究・開発した教育プログラムの育成目標に「企業が求める基本的資質（やる気、真面目、挨拶・返事、素直、忍耐力）」があるが、それらを「人間教育及びビジネス教育プログラム」「体力向上プログラム」「職場実習プログラム」其々において意識して研究開発を進めた。

結果として、様々なプログラムで同じ育成目標を意識したものとなっており、各教育プログラムの相乗効果により、さらに大きな教育効果が期待できるものとなったのではないかと思う。

##### ①人間教育及びビジネス教育プログラム

###### a. 企業が求める基本的資質育成プログラム

###### ・ 自分開発（99 時間）

企業が求める基本的資質について、21 項目の必要能力・条件を設定し、それらについて 13+ $\alpha$  の研修プログラムを開発、実証した。

また、教育プログラムの途中で自己肯定意識尺度による検査を 2 回、学習動機を測定する質問項目による調査を 1 回行い、教育効果を判断するひとつの材料とした。それら多くの研修プログラムを通して、教育プログラムの有効性を感じた。

###### ・ コミュニケーション検定に係る学習（35 時間）

コミュニケーション全般について全員が学習したのち、希望者 13 名がコミュニケーション検定試験の学習を行い 12 名が受験、11 名が合格した。

###### b. 講話プログラム（3 回）

企業が求める基本的資質に係る講話を 3 回行い、仕事に関して共通する本質的な部分を感じさせることができた。

###### c. 指導の為の職員研修プログラム（20 時間）

企業が求める基本的資質について生徒に指導するため、20 時間の職員研修を行い、講義・演習を通して職員のレベルアップができた。

###### d. ビジネス教育プログラム

###### ・ ビジネスマナー（8 時間）

基本的ビジネスマナーを学習するとともに、就職に必要な知識・スキル・心構えについて演習を通して学習した。

###### ・ パソコンスキル（98 時間）

ワード 2007 について全員が基礎から学習し、希望者 5 名が MCAS ワード 2007 の学習を行った。2 月に 5 名全員が受験し、満点合格者を含め 5 名全員が合格した。

## ②体力向上プログラム

### a. 楽しみながら継続できる有酸素運動・無酸素運動プログラム（87時間）

持久力を判断する推定最大酸素摂取量（VO2MAX）について、ほとんどの生徒（83%）が3ヶ月半の教育プログラム実施後に向上がみられる結果となった。VO2MAXの各学年平均値も、各クラス1.0~2.2上昇し、8段階評価で上から5番目（平均）だったのが4番目（平均以上）となるなど、体力向上の目的を十分に達成できた。

また、実証講座生へのアンケートの結果について、楽しんで取り組めた（90%）、一生懸命取り組めた（87%）、トレーナーの指示に素直に従えた（100%）、真面目に取り組めた（87%）、あいさつ・返事がきちんとできた（81%）、つらくても頑張れた（81%）となっており、本事業の教育プログラムにおける「企業が求める基本的資質」を意識したアンケート結果においても目的を達成できたのではないかと思う。

## ③職場実習プログラム

### a. 職場実習事前指導プログラム

- ・ 職場実習に係るビジネスマナー（9時間）
- ・ 適職診断（1回+6時間）
- ・ 工場見学（2か所）

様々な職場に広く共通するビジネスマナーの学習を通して職場に於ける基本的姿勢を身につけるとともに、適職診断・工場見学を通して職業への関心を高め、職場実習をより効果的なものとするための事前指導プログラムを開発・実証した。

### b. 企業が求める基本的資質を意識した職場実習プログラム（138時間）

職場実習担当者から、やる気、真面目、挨拶・返事、素直、忍耐力・持続力、身だしなみ、正確さ、手早さ、コミュニケーション、総合評価、という10項目について評価をしていただいたが、どの項目についても90%前後の方が「とても良い」、「良い」、という評価で、生徒の自己評価も同じような結果となった。職場で働くのが今回初めてという生徒も多かったが、企業が求める基本的資質を認識するという目的は概ね達成されたのではないかと思う。反面、学校を欠席しがちな生徒が職場体験実習も欠席してしまったという事例も数件あり、そのような生徒に対する今後の指導方策が課題のひとつとして残った。

しかし、そのような生徒を含め一部評価が悪かった生徒についても、それを本人にフィードバックして考えさせ、自分の課題を見つけさせることにより有意義な体験となったのではないかと思う。

## ②事業の成果

### ①人間教育及びビジネス教育プログラム

- 企業が求める基本的資質について、その大切さを認識させるとともに着実に向上させる為の様々な手法（講義・演習・グループワーク・講話など）を用いた教育プログラムを開発・実証できた。
- MCAS Word2007、コミュニケーション検定など、資格取得と絡めてモチベーションを維持しながらレベルアップを図る教育プログラムを開発・実証できた。
- 生徒個人ごとの学習動機を判断する質問項目とその結果の活用方策について開発することが出来た。

## ②楽しみながら継続できる有酸素運動・無酸素運動プログラム

- 運動の楽しさ、継続することの効果や大切さを実感させることができる教育プログラムを開発できた。
- ほとんどの生徒（83%）において体力の向上が見られ（VO2MAX）、其々の体力に応じて授業の中で体力（筋力・柔軟性・持久力）を向上させる為の様々な方法を取り入れた教育プログラムを開発できた。

## ③職場実習プログラム

- 企業が求める基本的資質について、職場体験実習を通して理解し、自分の課題を見つけるための教育プログラムを開発・実証できた。
- 全員が職場体験実習を行い、将来の就職先について考える大きな材料を生徒に提供することができた。

## ③次年度以降における課題・展開

今回の委託事業を含め、17年度からの合計4回の委託事業で研究・開発した教育プログラムをもとに「被服科」→「ライフデザイン科」と科名変更を行った。  
それにともない、開発した教育プログラムを授業課程に取り入れ、翌年度以降の入学生に対し実施していく。

### ①人間教育及びビジネス教育プログラム

#### 課題

- ・企業が求める基本的資質については、短期間で完成するような性質のものではないため、今回の教育プログラムにより向上していった内容を自分でも継続して伸ばしていけるようにする。
- ・パソコンスキルについては、資格取得までの教育プログラムは完成したが、習得した機能を用いてその後職場で実際に活用できるようにする。

#### 今後の成果の活用

- ・今回開発した教育プログラムを翌年度以降の教育課程に取り入れ実施していく。

### ②楽しみながら継続できる有酸素運動・無酸素運動プログラム

#### 課題

- ・飽きがこないようにさらにバリエーションを増やし、プログラム内容を広げていく。
- ・劣っているところを生活の中から伸ばしていけるよう、日常生活に取り入れる方法についてさらに充実させていく。
- ・個人の体力に応じた指導方法について、さらに効果的な手法を研究していく。
- ・より大きな効果を出す為に、一人一人に到達目標を持たせる。

#### 今後の成果の活用

- ・今回開発した教育プログラムを翌年度以降の教育課程に取り入れ、本校生に実施していく。

### ③職場実習プログラム

#### 課題

- ・毎年継続的に受け入れ可能な協力企業の確保。

#### 今後の成果の活用

- ・ 翌年度以降も実施可能な企業と連携し、継続して実施していく。

#### ④成果の普及

実施委員、各分科会委員、本校役員、保護者、その他関係者等、合計 29 名に対し成果発表会を行った。

また、成果報告書（300 部）、事業内容普及・配布用報告書（2,000 部）を作成し、茨城県、栃木県の中学校（90 校）、県担当部署、茨城県専修学校各種学校連合会、協力校、委託事業関係役員、本校役員、保護者、関係企業等に配布した。